

平成28年度

川崎市立中学校  
学習診断テスト  
国語科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会  
川崎市立中学校長会  
国語科調査委員会

# 国語

## I 作成方針と構成

### 1. 作問にあたって

今年度も「調査の目的」に即し、ペーパーテストで問える許容範囲で、国語科学習の全領域にわたって出題するよう努めた。作問にあたっては、中学校学習指導要領を踏まえた上で「平成 27 年度川崎市立中学校学習診断テスト 誤答分析と学習指導上の考察」にあらわれた問題点をはじめ、PISA 調査、全国学力・学習状況調査問題等の出題のねらいも考慮した。また国語科では昨年度同様、漢字や文法事項、語句の知識や仮名遣い、文章の内容把握などを「知識・技能」に、読み取ったことを整理すること、文章中の表現から人物の心情を想像することなどを「思考・判断・表現」に分類した。

全国学力・学習状況調査は、『主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題の二種類からなる』とある。

①主として「知識」に関する問題は、

- a 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- b 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などの内容

②主として「活用」に関する問題は、

- a 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容
- b 様々な問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力にかかわる内容

となっている。本市診断テストの作問にあたっては、問題作成の指針として意識した。「知識・技能」「思考・判断・表現」の分類についても、この内容を参考にした。

出題範囲・内容については、各学年とも 10 月末までに学習する内容を主体として、漢字の読み・書き、語句の知識や文法、書写、韻文（詩・短歌・俳句）、文学的文章（小説）、説明的文章（説明文）、古典（古文）から出題した。ただし、1 学年の古典、2・3 学年の書写については出題しなかった。また、全学年でそれぞれの履修内容に照らして聞き取りテストを実施した。

平成 25 年度から実施されている、「読む力」を扱う問題として、字数制限・一文を条件とした記述式問題を、文学的文章および説明的文章から出題する形式を、今年度も継続した。

1 学年は、文学的文章から、書き出しと書き終わりを指定して出題した。2 学年は、書き終わりを指定しキーワードを条件として加え、文学的文章から出題した。3 学年は、書き出しと書き終わりを指定しキーワードを条件として加え、文学的文章と説明的文章からそれぞれ出題した。

また、今年度より 2 学年の問題において「書く力」を扱う問題として、提示されたグラフの内容を読み取り、自分の立場を明確にして考えを述べる記述式の問題を出題した。

なお、文学的文章と説明的文章の選定にあたっては、文字数や使用されている語句、続きを読みたくなくなるような作品であることなど、複数の選定基準を設定して、多数の候補作品の中から吟味した上で出題作品を決定した。

## 2. 出題のねらい

	1 年	2 年	3 年
問一	<p>●校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・校内放送をするときの工夫を理解することができるか。</li> </ul>	<p>●話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・話題の内容をとらえて聞くことができるか。</li> <li>・話題とグラフとの関係をとらえて聞くことができるか。</li> </ul>	<p>●スピーチと質疑応答の内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・スピーチと質疑応答の内容をとらえて聞くことができるか。</li> <li>・話題とグラフとの関係をとらえて聞くことができるか。</li> </ul>
問二	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>・漢字の部首が理解できるか。</li> <li>・言葉の単位が理解できるか。</li> <li>・指示する語句が理解できるか。</li> </ul>	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>・付属語が理解できるか。</li> <li>・修飾・被修飾の関係が理解できるか。</li> <li>・漢字の成り立ちが理解できるか。</li> </ul>	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身に付いているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>・同音異義語が理解できるか。</li> <li>・ことわざが理解できるか。</li> <li>・動詞の識別ができるか。</li> </ul>
問三	<p>●毛筆・硬筆における楷書の書き方を理解しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・字形の整え方について理解できるか。</li> <li>・行の整え方について理解できるか。</li> </ul>	<p>●短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現技法が理解できるか。</li> <li>・内容理解と的確な鑑賞ができるか。</li> </ul>	<p>●俳句の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の特色が理解できるか。</li> <li>・季語、季節を理解できるか。</li> <li>・内容理解と的確な鑑賞ができるか。</li> </ul>
問四	<p>●詩の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が読み取れるか。</li> <li>・詩中の語句の使い方について理解できるか。</li> <li>・表現上の特色が理解できるか。</li> </ul>	<p>●文学的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・条件を満たして記述することができるか。</li> </ul>	<p>●文学的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中の語句の使い方について理解できるか。</li> <li>・登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・人物像を正しく把握できるか。</li> <li>・条件を満たして記述することができるか。</li> </ul>
問五	<p>●文学的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中での語句の使い方について理解できるか。</li> <li>・登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・人物像を正しく把握できるか。</li> <li>・条件を満たして記述することができるか。</li> </ul>	<p>●説明的文章の理解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・段落相互の関係が理解できるか。</li> </ul>	<p>●論理的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・図表から内容をとらえることができるか。</li> <li>・条件を満たして記述することができるか。</li> </ul>
問六	<p>●説明的文章の理解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・段落相互の関係が理解できるか。</li> </ul>	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。</li> <li>・主語の把握ができるか。</li> <li>・地の文と会話文を識別できるか。</li> </ul>	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。</li> <li>・主語の把握ができるか。</li> </ul>
問七		<p>●立場を明確にし、自分の考えを記述することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの内容を読みとり、説明することができるか。</li> <li>・自分の考えの理由を説明できるか。</li> </ul>	

## Ⅱ 第1学年の結果と分析

### 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語第1学年】

問題番号		趣旨		観点				問題の内容	出題のねらい	正答率(%)		無答率
大問	小問	知・技	思・判・表	話・聞	書	読	言					
1	ア	○		◎				①聞き取り (校内放送)	校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	79	1	
	イ1	○		◎					校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	78	0	
	イ2	○		◎					校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	72	1	
	イ3	○		◎					校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	90	1	
	ウ		○	◎					わかりやすいメモの書き方を理解できるか。	76	0	
2	ア1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	24	6	
	ア2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	80	10	
	ア3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	59	7	
	ア4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	90	5	
	ア5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	86	8	
	イ1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	29	39	
	イ2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	24	19	
	イ3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	60	23	
	イ4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	80	5	
	イ5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	86	9	
	ウ	○						◎	④言葉に関する知識	単語を理解できるか。	72	3
	エ	○					◎	指示語を理解できるか。		97	0	
オ	○					◎	部首の知識があるか。	77		11		
3	ア	○					◎	⑤書写に関する知識	文字のバランスの整え方を理解できるか。	99	0	
	イ	○					◎		行の整え方を理解できるか。	93	0	
4	ア	○					◎	⑥詩の読み取り	内容理解と的確な鑑賞ができるか。	82	0	
	イ	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	47	0	
	ウ		○				◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	61	5	
	エ		○				◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	78	4	
	オI		○				◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	84	2	
	オII		○				◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	97	0	
	オIII		○				◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	55	0	
5	ア		○				◎	⑦文学的文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	87	1	
	イ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	89	1	
	ウ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	39	1	
	エ		○				◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	93	1	
	オ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	17	11	
	カ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	76	1	
	キ		○				◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	69	2	
ク		○				◎	文章の特徴を理解できるか。	78	2			
6	ア		○				◎	⑧説明的文章の読み取り	内容の理解・把握ができるか。	60	8	
	イ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	88	0	
	ウ		○				◎		段落の役割を理解できるか。	64	1	
	エ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	53	3	
	オ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	70	5	
	カ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	59	3	
	キI		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	41	26	
	キII		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	53	30	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	71.0
思考・判断・表現	67.1

## 2. 主な誤答と分析【国語第1学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて		
1	(ア)	2	79	1	1 3 4	11 3 6	生徒が校内放送をしている内容を正確に聞き取ることができるかを問うものであった。 全体として正答率は高かったが、全体的な内容の理解度を問う問は比較的正答率が低かった。 「話す・聞く」の観点に重きを置いた授業の際には、一問一答のような形だけでなく、話の全体を掴めるような指導や授業を行っていく必要がある。  (平均正答率 79.0%)	
	(イ)	1	×	78	0	○		22
		2	×	72	1	○		27
		3	○	90	1	×		9
(ウ)	4		76	0	1 2 3	14 4 6		
2	(ア)	1	しょう	24	6	しょぼう しょゆう しょうなど	60 2 8	全体としては正答率が昨年よりも若干下がっていた。 1の「しょう」は普段見慣れない言葉ということもあり、誤答が非常に多かった。 また、4の「みちはば」に関しては日常的に使用頻度が高いものであるため、正答率は高かった。 今後も日常的に目にする漢字を読めるように継続的に指導していく必要がある。  (平均正答率 67.8%)
		2	くし	80	10	くっし かっし ずいし、など	2 2 6	
		3	さきゅう	59	7	すなはま さばく すなおか、さおかなど	10 7 17	
		4	みちはば	90	5	どうふく やわ(らぐ) つ、ゆさ、さわ、など	2 1 3	
		5	は(げる)	86	8	そ(げる) と(げる)など	3 3	
	(イ)	1	規模	29	39	表記の誤り 基○ ○漠、希○など	9 10 13	全体としては昨年並みの正答率であったが、漢字の読みに比べると、低い数字となった。 正答率の低い2の「批判」に関しては、「批」の部分の誤答が多く、やはり漢字練習と合わせて、漢字そのものの意味や熟語の意味なども指導していく必要がある。  (平均正答率 55.8%)
		2	批判	24	19	表記の誤り 比○ 否○、○反など	2 20 35	
		3	晩	60	23	表記の誤り 夜 勉、夕など	7 4 6	
		4	痛(い)	80	5	表記の誤り 病、など	12 3	
		5	城	86	9	表記の誤り 誠、など	3 2	
	(ウ)	5		72	3	4 6 3、7など	19 3 3	「指示する語句」に関する問いの理解度は非常に高かった。問エに比べて、問ウ、オの単語や漢字の部首に関する問いの正答率は比較的低かった。 日頃より部首を含めた漢字そのものの意味を確認しながら指導するなど、文法的な事項に関しても継続的に指導していく必要がある。  (平均正答率 82.0%)
	(エ)	4		97	0	1 2 3	1 0 2	
	(オ)	きへん		77	11	にんべん うかんむり、など	3 9	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
3	(ア)	3	99	0	1 2 4	0 1 0	書写分野の問いに関して、非常に正答率が高かった。今後も授業中の活動を通して、筆順や字画のバランスを取る必要性を継続的に指導していく必要がある。  (平均正答率 96.0%)	
	(イ)	1	93	0	2 3 4	1 0 6		
4	(ア)	2	82	0	1 3 4	3 7 8	「いま」という概念をどう捉えていかを述べている詩であった。全体を通して、高い正答率であることから、詩の全体的な内容はほぼ読み取れている。 しかし、問イ、問オのⅢなどの部分的な詳細を問うものや、詩の主題に迫る問いの正答率は低かった。今後は内容の読み取りだけでなく、詩の主題やテーマについて考える授業を設定していく必要がある。  (平均正答率 72.0%)	
	(イ)	3	47	0	1 2 4	50 1 2		
	(ウ)	あらゆる	61	5	はじめる かならず (いま)	21 11 2		
	(エ)	花が	78	4	日の 岩に たま、気づ、など	9 2 7		
	オ	I II III	2	84	2	1 3 4		1 9 4
			4	97	0	1 2 3		1 1 1
1			55	0	2 3 4	23 2 20		

5	ア	3	87	1	1 2 4	9 1 2	昨年同様、登場人物は多かったが、文章内容が分かりやすく、正答率は全体として上昇した。 問オのような物語文の条件記述問題の正答率が依然として低かった。また、問ウのような擬態語の挿入問題の正答率も低く、実際に文章の中で擬態語や擬声語などを活用する課題を設定し、継続して指導していく必要がある。  (平均正答率 68.6%)
	イ	1	89	1	2 3 4	1 6 3	
	ウ	2	39	1	1 3 4	19 3 38	
	エ	2	93	1	1 3 4	1 3 2	
	オ	キャンドルナイトで簡単に使う	17	11	B C (無答以外)	23 49	
	カ	4	76	1	1 2 3	3 17 3	
	キ	3	69	2	1 2 4	7 18 4	
	ク	1	78	2	2 3 4	12 2 6	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
6	ア	a	60	8	b c d	12 10 10	<p>過去と現在の状況を比較し、再生可能エネルギーを今後どう活用していくかを考えさせる説明的文章であった。</p> <p>全体的に使い慣れない言葉が多かったが、客観的な事例を踏まえて説明していたため、正答率は昨年に比べて高かった。</p> <p>問ア～カのような部分的な読み取りの問いについては比較的正答率が高かった。しかし、文脈や文章全体から語句を探し、考える必要がある問キの正答率が低かった。</p> <p>授業の中でも、一問一答のような読み取りだけでなく、全体の文意を捉えるように指導していく必要がある。</p> <p>(平均正答率 61.0%)</p>
	イ	2	88	0	1 3 4	11 0 1	
	ウ	1	64	1	2 3 4	5 28 2	
	エ	4	53	3	1 2 3	14 17 13	
	オ	3	70	5	1 2 4	11 9 5	
	カ	4	59	3	1 2 3	21 7 10	
	キ	I	地下から掘り出してくる	41	26	表記の誤り いつかなくなり枯渇する 地下から掘るエネルギーなど	
II		再生可能エネルギー	53	30	表記の誤り 太陽エネルギーなど いつか枯渇する運命、など	5 6 6	

# Ⅲ 第2学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語第2学年】

問題番号		趣旨		観点				問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表	話・聞	書	読	言				
1	ア	○		◎				①聞き取り(話し合いの内容)	内容の理解、把握ができるか。	84	1
	イ1	○		◎					話題の内容を捉えて聞くことができるか。	93	1
	イ2	○		◎					話題の内容を捉えて聞くことができるか。	97	1
	イ3	○		◎					話題の内容を捉えて聞くことができるか。	95	1
	ウ	○		◎					話題とグラフとの関係を捉えて聞くことができるか。	89	1
2	ア1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について読字ができるか。	89	3
	ア2	○					◎		既習の漢字について読字ができるか。	24	4
	ア3	○					◎		既習の漢字について読字ができるか。	37	17
	ア4	○					◎		既習の漢字について読字ができるか。	90	2
	ア5	○					◎		既習の漢字について読字ができるか。	34	20
	イ1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について書字ができるか。	37	42
	イ2	○					◎		既習の漢字について書字ができるか。	38	17
	イ3	○					◎		既習の漢字について書字ができるか。	56	28
	イ4	○					◎		既習の漢字について書字ができるか。	67	26
	イ5	○					◎		既習の漢字について書字ができるか。	12	64
	ウ	○					◎	④言葉に関する知識	付属語が理解できるか。	23	1
	エ	○					◎		修飾・被修飾の関係が理解できるか。	50	1
	オ	○					◎		漢字の成り立ちが理解できるか。	34	1
3	アA	○					◎	⑤短歌の内容	短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。	98	0
	アB	○					◎		短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。	89	0
	アC	○					◎		短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。	88	0
	アD	○					◎		短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。	91	0
	イ	○					◎		短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。	57	2
	ウ	○					◎		表現技法が理解できるか。	41	2
4	ア	○					◎	⑥文学的文章の読み取り	文学的文章の読解ができるか。	58	1
	イ	○					◎		文学的文章の読解ができるか。	59	1
	ウ	○					◎		文学的文章の読解ができるか。	79	1
	エ	○					◎		文学的文章の読解ができるか。	76	1
	オ	○					◎		文学的文章の読解ができるか。	85	1
	カ	○					◎		条件を満たして記述することができるか。	37	13
	キ	○					◎		文学的文章の読解ができるか。	74	1
	ク	○					◎		文学的文章の読解ができるか。	87	1
5	ア	○					◎	⑦説明的文章の読み取り	説明的文章の理解ができるか。	52	3
	イ	○					◎		説明的文章の理解ができるか。	65	2
	ウ	○					◎		説明的文章の理解ができるか。	56	2
	エ	○					◎		説明的文章の理解ができるか。	78	3
	オ	○					◎		説明的文章の理解ができるか。	38	25
	カ	○					◎		説明的文章の理解ができるか。	59	5
	キ	○					◎		説明的文章の理解ができるか。	29	17
6	ア	○					◎	⑧古文の読解	内容の理解、把握ができるか。	81	3
	イ	○					◎		歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。	75	8
	ウ	○					◎		主語の把握ができるか。	29	4
	エ	○					◎		地の文と会話文を識別できるか。	1	20
	オ	○					◎		古典の読解ができるか。	51	6
7		○				◎	⑨記述式問題	立場を明確にし、自分の考えを記述することができるか。	47	16	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	54.8
思考・判断・表現	68.7



## 2. 主な誤答と分析【国語第2学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
1	ア	3	84	1	1 2 4	8 2 4	<p>今回の聞き取りは、職場体験でのインタビューを題材にしたものであった。</p> <p>仕事の内容やインタビューの仕方について概ね正しい選択肢を選ぶことができ、的確に聞き取ることができたことがわかる。</p> <p>今後の学習では、話の中心や組み立てを考へて聞く力を育むことができるかが重要である。 (平均正答率 91.6%)</p>	
	イ	1	○	93	1	× 表記の誤り		4 2
		2	×	97	1	○ 表記の誤り		1 2
		3	○	95	1	× 表記の誤り		2 2
ウ	1		89	1	2 3 4	4 1 5		
2	ア	1	したく	89	3	しど しどう しつど など	5 1 1	<p>漢字の読み取りでは、日常生活で用いられる小問1「支度」や問題文から状況が判断しやすい小問4「潜む」は、正答率が高く、かつ、無答率の低さからも定着していることがうかがえる。</p> <p>一方、小問2「交錯」を「こうさ(交差)」と読み間違えたものや、問題文から判断しづらい小問3「篤実」、小問5「戒める」の正答率の低さが目立った。</p> <p>今後の学習では多くの活字に触れる機会を作り、どれだけ語彙を増やすことができるかが重要である。 (平均正答率 54.8%)</p>
		2	こうさく	24	4	こうさ こうしゃく 表記の誤り など	64 1 7	
		3	とくじつ	37	17	けんじつ かんじつ ちゅうじつ	7 4 4	
		4	ひそ(む)	90	2	しず(む) はぐく(む) 表記の誤り など	6 2 1	
		5	いまし(める)	34	20	きわ(める) あらた(める) せ(める)	6 5 3	
	イ	1	昇格	37	42	証覚 表記の誤り など	1 20	
		2	絶滅	38	17	絶滅 表記の誤り など	6 39	
		3	狙	56	28	祖 獲 表記の誤り など	7 4 5	
		4	鋭	67	26	鈍 斜 表記の誤り など	2 1 4	
		5	妨	12	64	防 表記の誤り など	11 12	
	ウ	4		23	1	2 3 5	32 42 3	
	エ	4		50	1	1 2 3	17 19 14	
	オ	3		34	1	1 2 4	4 58 3	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
3	ア	A 3	98	0	1 2 4	0 1 1	<p>昨年度と同じく、短歌の設問において正答率が高かった。</p> <p>これは、今年も若者目線に立った口語調の短歌が多く採用され、共感しやすく分かりやすかったためだと考えられる。</p> <p>こういった共感しやすい作品をきっかけとして、短歌への興味の幅を広げていけるような指導を心がけていく必要がある。</p> <p>(平均正答率 77.3%)</p>
		B 1	89	0	2 3 4	6 3 1	
		C 1	88	0	2 3 4	9 1 1	
		D 2	91	0	1 3 4	1 2 7	
	イ 6	57	2	3 1 その他	19 9 13		
	ウ 4	41	2	3 2 その他	32 11 14		
4	ア 3	58	1	1 2 4	5 22 14	<p>今回、中学生の仲間とのやりとりを題材にしたということもあり、全体的に正答率が高かった。</p> <p>小問ア、ウ、エ、オ、キ、クの登場人物の心情を問う部分では共感しやすいということもあり、正答を導きやすかったと考えられる。</p> <p>一方、小問カでは、条件に適した文章を書くことが難しく、他の設問に比べると正答率が低かった。また、無答率も13%と、内容を読み取り考えをまとめて書くことに抵抗があることがわかる。</p> <p>今後の授業では登場人物の心情に寄り添うことを大切にしながら、読み取った内容を要約して文章に書く場面を設定することが必要である。</p> <p>(平均正答 69.3%)</p>	
	イ 2	59	1	1 3 4	33 2 5		
	ウ 1	79	1	2 3 4	1 1 18		
	エ 4	76	1	1 2 3	10 10 2		
	オ 1	85	1	2 3 4	2 8 3		
	カ 田んぼを～休部する	37	13	B C (無答以外)	4 45		
	キ 3	74	1	1 2 4	1 3 21		
	ク 2	87	1	1 3 4	4 4 3		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
5	ア	b	52	3	a c d	20 5 17	<p>昨年の正答率とほぼ同じで、自然に関する設問では根拠をもって正しい選択肢を選ぶことができたと考えられる。</p> <p>一方、小問オの適切に文章を抜き出す問題の正答率が低く、4人に1人が無答である。さらに、小問キの「都市化」を抜き出す問いでも極端に正答率が低く、文章のキーワードや適切な一文を抜き出すことができていない。</p> <p>今後の学習では説明文を読むときにキーワードを意識させるなど、キーワードを入れた要約をさせる場面をつくることが重要である。 (平均正答率 53.8%)</p>
	イ	4	65	2	1 2 3	5 13 15	
	ウ	2	56	2	1 3 4	13 9 20	
	エ	1	78	3	2 3 4	6 6 8	
	オ	森の～な木	38	25	森の～る。 その～ろう 花粉～条件 など	3 3 31	
	カ	4	59	5	1 2 3	7 21 8	
	キ	都市化	29	17	二次林 原生林 海岸線 など	24 10 20	
6	ア	4	81	3	1 2 3	2 8 7	<p>昨年に比べると古文の正答率が高く、百人一首の和歌があることから読みやすかったと考えられる。</p> <p>一方、小問ウの適切な主語を選ぶ問題の正答率が低く、会話のやりとりが正確に読み取れていないことがわかる。さらに、小問エの登場人物の会話を探し出す問いの正答率が特に低かった。</p> <p>今後の学習では主語を確認した上で、登場人物のやりとりを適切に読み取り、内容理解をしていく場面を粘り強く作っていくことが重要である。 (平均正答率 47.4%)</p>
	イ	たまいて	75	8	たまに たもうて など	3 14	
	ウ	1	29	4	2 3 4	38 21 7	
	エ	いと～なり	1	20	小倉～なむ 行幸～らむ かく～なむ など	35 7 37	
	オ	3	51	6	1 2 4	20 14 9	
7		模範解答参照	47	16	B C (無答以外)	8 29	<p>今年より新設した書き問題では、ある「世論調査」のデータを読み取り、条件にあった文章を書くものであった。</p> <p>条件にあった模範解答に近づいたものが半数あり、敬語が必要なのかという問いに対して自分の考えを的確に書くことができたと考えられる。</p> <p>今後の学習でも根拠をもった文章を書くことを意識させるなど、自らの考えを適切にまとめて、継続的に書く場面を設定していくことが重要である。 (平均正答率47%)</p>

# IV 第3学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語第3学年】

問題番号		趣旨		観点				問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率	
大問	小問	知・技	思・判・表	話・聞	書	読	言					
1	A1	○		◎				①聞き取り (スピーチ)	スピーチの内容を的確に聞き取ることができるか。	83	0	
	A2	○		◎					スピーチの内容を的確に聞き取ることができるか。	96	0	
	A3	○		◎					スピーチの内容を的確に聞き取ることができるか。	94	0	
	イ	○		◎					スピーチの内容を的確に聞き取ることができるか。	30	0	
	ウ		○	◎					話題とグラフの関係を捉えて聞けることができるか。	68	0	
2	A1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	23	3	
	A2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	78	7	
	A3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	90	2	
	A4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	52	4	
	A5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	52	18	
	イ1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	41	12	
	イ2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	48	27	
	イ3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	39	21	
	イ4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	27	37	
	イ5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	10	46	
	ウ	○						◎	④言葉に関する知識	同音異義語を理解できるか。	94	0
	エ	○					◎	ことわざを理解できるか。		51	0	
	オ	○					◎	動詞の活用の識別ができるか。		47	0	
	3	AA		○				◎	⑤俳句の鑑賞	内容理解と的確な鑑賞ができるか。	68	8
		AB		○				◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	62	15
イ			○				◎	内容理解と的確な鑑賞ができるか。		91	1	
ウ			○				◎	内容理解と的確な鑑賞ができるか。		92	0	
エ			○				◎	表現上の特色が理解できるか。		24	0	
オ			○				◎	季語・季節を理解できるか。		69	0	
4	ア	○					◎	⑥文学的文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	80	0	
	イ		○				◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	84	0	
	ウ	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	81	0	
	エ	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	80	0	
	オ		○				◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	85	0	
	カ		○				◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	37	19	
	キ	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	85	0	
	ク		○				◎		人物像を正しく把握できるか。	71	0	
5	ア	○					◎	⑦説明的文章の読み取り	内容の理解・把握ができるか。	85	1	
	イ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	64	1	
	ウ	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	90	1	
	エ	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	70	1	
	オ	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	83	1	
	カ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	43	1	
	キ		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	68	2	
	ク		○				◎		要旨が把握できるか。	28	24	
6	ア	○					◎	⑧古典の読み取り	歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。	84	6	
	イ	○					◎		主語の把握ができるか。	61	1	
	ウ		○				◎		登場人物の把握ができるか。	79	12	
	エ	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	13	26	
	オ	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	52	4	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	64.6
思考・判断・表現	60.9

## 2. 主な誤答と分析【国語第3学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
1	ア	1	○	83	0	×	17	<p>問1では、スピーチの内容と質疑応答の内容を的確に聞き取る力が求められた。小問アでは、多くの生徒が問題文の内容を正確に捉えることができている。しかし、スピーチの仕方について考えるという、聞き取った上でさらに思考が必要とされる小問イでは正答率が大きく下がる。</p> <p>問いの答えを探すだけではなく、流れを捉えて聞く力を育てていくことが今後、求められる。 (平均正答率 74.2%)</p>
		2	×	96	0	○	4	
		3	○	94	0	×	6	
	イ	2		30	0	3 1 4	47 21 2	
	ウ	3		68	0	4 1 2	28 3 1	
2	ア	1	ていさい	23	3	たいさい たいせい たいさく、など	51 18 5	<p>問2では、言語に関する基礎的な知識が身に付いているかが問われた。</p> <p>小問アでは、既習の漢字についての読字だが、昨年より正答率が25%も減少した。特に「体裁」の誤読が多い。</p> <p>既習の漢字ではあるが、普段の生活であまり見慣れていない語句を正しく読む力を養っていくことが今後、求められる。 (平均正答率 59.0%)</p>
		2	ごうまん	78	7	ほうまん ぼうまん ふまん、など	2 2 11	
		3	せいとん	90	2	せいとう せいじゅん せいび、など	3 1 4	
		4	ほころ(びる)	52	4	の お さ、など	32 4 8	
		5	おろ(す)	52	18	もよお お もう、など	2 6 22	
	イ	1	休憩	41	12	休のみ 休息 その他、表記の誤りなど	16 2 29	<p>小問イでは、既習の漢字についての書字だが、読字に比べると、正答率が低いことがはっきりとわかる。</p> <p>正答率の低い小問イ5の「顧みず」に関しては、無答率も高い。「省みる」の誤答が多いことと併せて考えても、言葉の意味そのものを理解していない可能性が高いと思われる。</p> <p>漢字練習と併せて漢字そのものの意味や言葉の意味なども指導していくことが求められる。 (平均正答率 33.0%)</p>
		2	頑固	48	27	固のみ 願固、堅固、頑個 その他、表記の誤りなど	5 20	
		3	推測	39	21	推のみ 則 その他、表記の誤りなど	15 12 13	
		4	紛(れる)	27	37	粉 混 その他、表記の誤りなど	21 5 10	
		5	顧(みず)	10	46	省 帰、返 その他、表記の誤りなど	23 11 10	
	ウ	1		94	0	2	6	小問ウでは同音異義語が理解できているかが問われたが、概ね正しく答えることができている。
	エ	3		51	0	2 4 1	24 19 6	小問エではことわざが理解できているか、小問オでは動詞の活用の種類の識別が問われたが、誤答が多い。
	オ	4		47	0	3 2 1	18 17 12	活用など文法の基礎的な事項についてしっかりと理解することが今後、求められる。 (平均正答率 64.0%)

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
3	ア A	朝の雨	68	8	雰囲気 きせつ 気持ち	22 1 1	<p>問3では、俳句の内容を理解し、的確に鑑賞することができるかが問われた。</p> <p>小問イ、ウ、では、概ね俳句の内容を捉えられ、正答を導くことができた。</p> <p>一方、俳句に使われている語句から情景を思い浮かべ、より深く考える必要がある小問アでは正答率がやや低くなった。</p> <p>俳句の内容を理解するだけでなく、背景にある作者の想いを想像し読み取っていくことが今後、求められる。 (平均正答率 67.7%)</p>
	ア B	さびしい	62	15	イメージ 雨が降る かなしい	13 6 4	
	イ	2	91	1	3 4	7 1	
	ウ	1	92	0	2 4 3	3 3 2	
	エ	5	24	0	8 7 その他	32 23 21	
	オ	4	69	0	6 7 8、その他	14 6 11	
4	ア	3	80	0	1 2 4	16 3 1	<p>問4では、文学的文章の読解ができるかが問われた。</p> <p>小問ウの語句の補充問題では、概ね正解を導くことができた。また、その他の登場人物の心情を答える問題でも、概ね正しいものを選ぶことができた。</p> <p>しかし、小問オの主人公の心情について考え記述する問いでは、無答率が高くなっている。短いものでよいので記述する活動を授業に取り入れ、苦手意識を払拭していく指導が今後、求められる。 (平均正答率 75.4%)</p>
	イ	2	84	0	3 1 4	7 6 3	
	ウ	1	81	0	2 3 4	14 3 2	
	エ	1	80	0	3 4 2	14 4 2	
	オ	4	85	0	3 1 2	11 3 1	
	カ	本校の～された	37	19	B C(無答以外)	16 28	
	キ	3	85	0	2 1 4	12 2 1	
	ク	2	71	0	3 1 4	17 11 1	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
5	ア	4	85	1	1 2 3	7 4 3	<p>問5では、説明的文章の読解ができるかが問われた。</p> <p>内容の理解や把握がどれだけできているか。段落相互の関係が理解に関する問題が出題されたが、文学的文章と比較すると、全体的に正答率がやや低い。しかしながら昨年と比べると約10%上昇している。</p> <p>小問イは図表を読み取る問題だったが、誤答の割合が多く、正しい解答を導きだすことが難しかった。</p> <p>さらに、小問カは文章の特徴を問う問題であるが、正答率が約4割と低い。文章全体を理解できるようにする必要がある。</p> <p>また、小問クでは、文章のテーマに関する筆者の考えを条件のもと、文章表記するというものだったが、正答率と無答率が同程度であった。</p> <p>適切に内容を読み取り、自分の言葉に置き換えて考えられる力を育むことが今後、求められる。</p> <p>(平均正答率 65.8%)</p>
	イ	3	64	1	4 2 1	14 11 10	
	ウ	1	90	1	2 3 4	4 4 1	
	エ	3	70	1	1 4 2	14 11 4	
	オ	2	83	1	1 3 4	6 6 3	
	カ	4	43	1	2 3 1	24 20 12	
	キ	2	68	2	1 3 4	16 9 5	
	ク	略	28	24	B C(無答以外)	23 25	
6	ア	いたるに	84	6	えたるに みたいに ぬれたるに、など	2 2 6	<p>問6では、古典の読解ができるかが問われた。</p> <p>内容を理解、把握し、歴史的仮名遣いを正しく理解しているか。そして、主語を把握しているかという内容の出題がされた。</p> <p>小問アは、歴史的仮名遣いを問う問題であるが、「ゐ」を正確に理解していない生徒が約2割存在する。ほぼ古典でしか目にしない文字ではあるが、今一度確認をする必要がある。</p> <p>小問エは空欄補充問題であるが、正答率が極端に低い。注釈を参考にしながらおおまかな内容を捉える力が求められる。</p> <p>(平均正答率 57.8%)</p>
	イ	2	61	1	1 3 4	20 12 6	
	ウ	時々来る男	79	12	をんなずさ 使はれし女 親のありし、など	4 1 4	
	エ	小はかま	13	26	奉りたる 持仏堂に 観音持ち、など	12 10 39	
	オ	4	52	4	3 1 2	37 5 2	



## V 全体の考察と今後に向けて

### 1. 全体の考察

1・3学年においては、昨年度とほぼ同様の問題量で、時間的にも概ね適切であったと思われる。2学年に関しては、今年度から導入された「記述式の問題」が大問7に追加されたため、聞き取りテストの放送時間を短縮するとともに、説明的文章からの記述式問題を除いた。

問題ごとに平均正答率を見てみると、1年生「知識・技能」71.0%、「思考・判断・表現」67.1%、2年生「知識・技能」54.8%、「思考・判断・表現」68.6%、3年生「知識・技能」64.6%、「思考・判断・表現」60.9%であった。2学年の「知識・技能」に関する問題の正答率が比較的低い結果となった。

今年度の結果から、課題として今後の指導において育成していくことが必要な力は、

- ① 聞き取った情報を整理し、資料と結び付けながら状況や内容を把握する力
- ② 漢字の知識（特に書く力）を身に付け、日常生活の中で正確に活用する力
- ③ 文章の構成を理解し、全体の内容を把握する力
- ④ 文語の基礎・基本を理解し、関心をもって日本の伝統文化や古典に親しむ力

などと思われる。学習指導要領に即して、国語科における言語活動の充実の意義について再確認したい。

また、今年度の問題形式は、選択式と短答式（語句や短い文、数値などで解答するもの）に加えて文学的文章・説明的文章で記述の問題を出題するとともに、2学年では独立した問題として記述式の問題を出題した。記述問題の集計では、A・B・Cの三段階に分けて正答例を示したが、中間配点等の細部については、各学校に採点基準を任せた。アンケートでご意見をいただいた点については引き続き課題として考えていく必要がある。

短歌の出題については、今年度も作問委員が自作した短歌を使用した。これは生徒の実態に合わせた作問をする上で、非常に有効であったと感じている。俳句の出題については、生徒と教師の俳句についての会話の内容を元に出題するなど工夫した。また、「思考・判断・表現」を意識した聞き取りの問題を作成した。1学年では放送メモ、2・3学年ではグラフを活用した問題を出題した。

### 2. 出題内容ごとの考察

#### (1) 聞き取り

全体的に正答率は高く、正確に情報を聞き取り、内容を把握する力は身に付いている。特に2学年においては平均正答率が90%を超えており、問題の難易度を含め検討していきたい。一方、3学年のスピーチの仕方について考える問題については正答率が30%となり、聞き取った上でさらに思考を必要とする問題ができない生徒が多くいた。来年度以降も資料を活用しながら考える聞き取り問題の出題を継続したい。

#### (2) 言語事項

昨年度同様、既習の漢字からの出題とした上で、なるべく日常生活の中で用いる漢字、文意に沿って用いるべき漢字という要素を視野に入れた。

各学年とも漢字の読みの正答率は書きよりも高かった。特に、使用頻度の高い語句（1学年・道幅、剥げる、2学年・支度、潜む、3学年・整頓）については、正しく読む力の定着がみられた。しかし、日常生活の中であまり慣れ親しんでいない漢字（1学年・所望、2学年・交錯、篤実、戒める、3学年・体裁）は、正答率が特に低かった。

一方、漢字の書きの正答率は全体的に低く、設問によっては無答率が高いもの（1学年・規模、2学年・昇格、妨げる、3学年・紛れる、顧みず）もある。また、今年度も部首の誤りが多く見られ、漢字の意味を



意識させながら指導することの重要性が改めて示された。

語句や文法の知識に関する設問については、1学年は文法(単語)・指示する語句・部首、2学年は文法(付属語)・文節(修飾・被修飾の関係)・漢字の成り立ち(象形文字)、3学年は同音異義語・ことわざ・文法(動詞の活用)を出題した。正答率が特に低かった設問は、2学年の付属語、漢字の成り立ち、3学年のことわざ、文法(動詞の活用)である。いずれも言語についての基本事項の確認のための出題なので、できるだけ正答率を上げていくように知識を定着させたい。

書写は1学年のみで、字形の整え方と硬筆の行の整え方についての出題であった。平均正答率は96%と非常に高かった。引き続き書写の授業だけではなく日頃から字形や行のバランスを意識して書かせていきたい。

### (3) 韻文(詩・短歌・俳句)

1学年は詩、2学年は短歌、3学年は俳句という形は従来どおりである。1学年の詩では、詩中の比喩的な表現を読み取る問題、2学年の短歌では、表現技法を問う問題、3学年の俳句では、表現上の特色を問う問題の正答率が低かった。韻文は、教科書に掲載されている作品数に限りがあるため、授業時間の中で扱う作品数が少ない傾向がある。資料集や便覧、また図書室などの資料を活用して、多くの作品を紹介することが有効であると思われる。

### (4) 文学的文章

中学生または、中学生に近い年齢の人物が登場し、人物の心情の変化が表れている場面を選定した。しかし、3学年の作品については、題材が前向きな内容でなく、文章選定の妥当性に欠けるのではないかとのご指摘をいただいた。文章選定の留意点として来年度に申し送りたい。全般的に正答率が高く、文章の展開に即して内容を捉えることや登場人物の心情について理解することは概ねできていると考えられる。ただし、1学年のオの問題や、2学年のカの問題、3学年のカの問題など、「読む力」を扱う問題としての記述式問題の正答率が低いとともに無答率が高い。これは、選択式ではなく、自分で言葉を作り上げて答えるということに対する苦手意識があると推察される。文章(問題文)を読むこと自体に負担を感じてしまう生徒の苦手意識を取り除くような指導をしていかなければならない。授業の中で語彙力を向上させる指導、文章を読むことを楽しめるような指導を意識したい。

### (5) 説明的文章

昨年度に比べ1・3学年の正答率には改善が見られたが、2学年の正答率はそれに比較して低い結果となった。2学年の文章が、生徒の日常生活から離れたテーマを扱った文章であり、生徒が内容を身近に感じることができなかった点が要因だと思われる。また、専門的な用語が多く、中学生にとって読みづらい題材だったことが難易度を高めた理由と考えられる。3学年の文学的文章同様、来年度の文章選定の際に検討したい。

今年度は、1・2学年において文章中から指定された文字数で抜き出して答える問題、3学年で記述式問題を出題したが、文学的文章同様、選択式の問題と比較して無答率が高い。今後も、学習活動の中で書いて発信する習慣を付けていくことが重要となるだろう。

### (6) 古典

昨年度と比較して、2学年、3学年ともに正答率に若干の改善が見られた。両学年とも、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに書き直す問題における正答率は高く、昨年度からの改善が見られた。しかし、2学年での会話文を探す問題の正答率が極端に低く、これについては昨年度の課題が改善されていない。今後も、会話文と地の文の識別を含め文章全体を通じてどのような内容が書かれているかということを理解する力を付けていくことが必要であると思われる。

### (7) 記述式の問題

今年度より、2学年において「書く力」を扱う問題としての記述式問題を出題したが、条件にあった解答

に近づいたもの（A・B）が50%を超え、問題の問いに対して自分の考えを的確に書くことができたと思われる。これは、行数や段落の数の指定、段落ごとに書く内容を明確にしたことが要因と考えられる。アンケートにおいても比較的好評であったので、来年度も踏襲したい。ただし、問題量と時間、採点基準の問題等、課題もご指摘いただいたので検討し作問に生かしていきたい。

### 3. 今後に向けて

#### （1）話すこと・聞くこと

学校生活の中では、あらゆる場面で「聞く」姿勢の大切さを伝えている。特に、国語科の授業の中では指示や説明の際に、意識して話を聞くように指導したい。また、少人数での話し合い活動では、話すことと聞くことを相互に連続で行うことになる。日常会話との違いを意識して活動させるため、話し手と聞き手を明確に区別するなど、生徒に話し合い活動のルールを理解させた上で学習活動を行いたい。また、教科書には資料を示しながら説明する活動や発表など複数の話し合いの形式が掲載されている。積極的に授業に取り入れることで、資料と聞き取った情報（言葉）を関連づける力を養っていきたい。

#### （2）書くこと

今年度も、各学年で出題した記述式問題はあくまでも「読む力」を扱う問題であり、「書く力」を扱う問題は、新しい試みとして2学年のみ出題した。自分の立場を明確にした上で自分の考えをまとめるために、授業の中で感じたことや考えたことをわかりやすく記述したり、文章の要約をしたりする活動を取り入れた。さらに、その文章を読み合ったり、比較したりする活動も取り入れることで、文章力の育成にもつながっていくと思われる。

#### （3）読むこと

文学的文章を読む際には、登場人物の心情を読み取ることが中心になるとと思われる。人物の心情を読み取るためには、風景描写や季節、時代設定や環境などを正確に把握することが大切である。また、読み取ったことや想像したことをまとめさせるだけでなく、その判断材料となった表現や語句を挙げさせたり、他の生徒と読み方が異なる部分の根拠を説明させたりすることで、細かい表現に着目するように指導したい。

説明的文章を読む際には、筆者の意見を正確に読み取れる力を育てたい。文章の構成や段落の関係性・役割について捉えられるようにする必要がある。専門用語や熟語が多用されている文章が多いため苦手意識をもっている生徒もいるが、語句の意味調べ等にも時間を割きながら、文章の題材やテーマに関心をもたせることで前向きに取り組ませたい。また、グラフやデータを活用している文章もあるので、国語以外の分野とも関連させる等、導入の工夫も大切になるとと思われる。

韻文を読む際には、まずは表現技法や韻文の種類ごとの特徴を理解させる必要がある。そして、より多くの作品に触れながら、そのよさや作者の意図・思いを感じ取る豊かな感性を育てていきたい。また、韻文を生徒自らに創作させることで、韻文に対する理解を深めさせることにつながると考えられる。

#### （4）言語に関する事項

漢字や文法の知識が、国語の力を培う上での基礎・基本である。近年、パソコンやメール等の使用頻度が高まり、漢字の意味を考えることが少なくなった。漢字の意味を理解することは、漢字の読み書きだけでなく、同音異義語・同訓異字の使い分けや、文章の流れをつかみ、内容を素早く正確に読み取るために必要である。漢字の成り立ちや部首の指導などを通して、漢字の意味を常に意識させていきたい。

また、手書きの漢字の許容範囲は広く、わずかな字形の差異は認められている。よって、配付している許容表以外については各校の状況に応じて判断しながら、字形を整えることや正確な漢字を書くことを大切にする姿勢を養えるような指導が必要である。これには、日常の指導はもちろん、書写の授業の役割が非常に大きい。

今年度も、日常生活で使用頻度の高いものを出题すべきとのご指摘があり、五教科調査委員会においても

同様の考えのもとで作問を行っている。しかし、「既習の漢字をひとつでも多く日常生活において使用できるようにすること」が必要だとも考えている。生徒の語彙数を増やし、豊かな言語活動につながるように、偏りなく漢字の知識が身に付くように指導をしていきたい。

#### (5) 古典（伝統的な言語文化）

古典は、当時の人々の生活や環境を知らなければ読み取るとは難しい。まずは作品の時代背景や現代との文化の違いを指導することが大切であり、それは生徒に興味・関心をもたせることにもつながる。次に、現代とは違う言葉の言い回しや使い方に慣れるために、音読や暗唱などの学習活動が重要である。また、古文と現代語訳を対応させて文章の内容をおおまかに捉えることも必要である。

このような学習を積み重ねることで抵抗感が薄れ、多くの古典に親しもうという姿勢が身に付き、文章を読み進めることができれば、注釈や現代語と共通する表現などを手掛かりに内容の理解へとつなげていくことができる。

### 4. 授業改善に向けて

3「今後に向けて」で記載したとおり、各領域での改善点については、すでに分析したが、国語全般の力を付けるために、テストで問えない実用的な力を育成する授業づくりが必要になると考えられる。また、学習課題の内容とねらいが生徒に伝わる「分かりやすい授業づくり」のための綿密な準備や計画も不可欠であると考えられる。

まず、身に付けさせたい力を生徒に理解させた上でねらいに迫り、最後には授業のまとめとなる課題を設定し、学んだことが各自で整理・定着できる授業を心がけたい。

また、資料集や辞書を活用して個人で取り組む課題や、小グループで話し合っ発表し合う課題等、授業の形態を工夫することで、様々な角度から生徒が文章と向き合えるのではないかと。そして、扱う課題や教材に応じて指導者が効果的な方法を考え、実践していくことが求められる。画像や実物投影を用いた指示・説明等、視聴覚教材も授業形態に合わせて活用したい。

最後に、今回の川崎市学習診断テストも振り返りをしっかり行い、学校ごとの課題を捉え、今後の指導の参考に有効活用していただきたいと思います。

